



I 目指す学校像

肢体不自由のある子供たちの特性や発達課題に応じた教育を行い、地域や社会の一員として自立する力を育成する学校

- 1 児童・生徒が、意欲的に学びたくなる学校
- 2 保護者が安心して、我が子を託せる学校
- 3 地域とともに歩み、地域の人々に信頼される学校
- 4 教職員一人一人が、法令等を遵守し相互の連携を深め組織的な学校運営を推進する学校

II 本校の教育目標

日本国憲法、教育基本法及び学校教育法の理念に基づき、特別支援学校としての地域におけるセンター的な機能の発揮を図るとともに、特別な教育のニーズのある児童・生徒一人一人が、生涯を通して豊かな人生を送ることを願い、以下の教育目標を定める。

- (1) いのちを大切にし、健康な心と体をつくる。
- (2) 感性や思いを豊かにし、コミュニケーションの力を身に付ける。
- (3) 自分を大切にしながら、社会の一員として互いに認め合い、ともに生きる力を付ける。
- (4) 学ぶ喜びを味わい、主体的に学び、考え、行動する力を身に付ける。

III 中期的目標と方策

専門性の高い教育、連続性のある教育が提供できるよう、教職員一人一人がその職責を果たすとともに、校内OJTを推進し学校教育力を高めていく。次のあるべき姿をめざし以下に目標と方策を定める。

目 標

- ① **人権を尊重し、個別のニーズに応じた教育活動の充実**
人権感覚の鋭敏さ、外部専門員ほか外部人材等との協働
- ② **教職員のスキルアップを図り、協働・連携による健康・安全面の教育活動の推進**
計画的な校内OJT推進体制、外部専門員ほか外部人材等との協働による教育活動の推進
- ③ **地域支援・連携、組織体制の強化**
地域に開かれ地域の特別支援教育を推進する

方 策

上記目標を実現するために以下の方策を実施する。

- ① **「人権を尊重し、個別のニーズに応じた教育活動の充実」**
 - ・生活年齢、個々の違いに応じた適切な指導の徹底
 - ・外部人材活用による児童・生徒の能力を最大限引き出すための授業力の向上
 - ・児童・生徒一人一人のニーズに応じた、系統的なキャリア教育の充実
- ② **「教職員のスキルアップを図り、協働・連携による健康・安全面の教育活動の推進」**
 - ・主幹教諭やミドルリーダー教員を活用した校内OJT体制の推進
 - ・地震水害等による停電等災害に備えた実践的教育の推進
 - ・多職種教職員の連携による安全な医療的ケア、自立活動等の推進
- ③ **「地域支援・連携、組織体制の強化」**
 - ・保護者及び地域関連機関との緊密な連携による教育の充実
 - ・職層に応じた業務分担と責任の明確化
 - ・法令順守に基づく個人情報等の適正な管理

令和4年度の重点目標と方策

1 新学習指導要領に基づく授業力の向上

- (1) 人権を尊重した適切な指導の徹底
- (2) ICT 機器を活用し教育活動の充実を図る。

3年度評価：昨年度、教員の言動へ配慮を求める保護者からの要望が複数見られた。人権尊重の精神を自らの言動に込めることを改めて本年度の取組目標とする。ICT 機器を活用した指導のさらなる充実については保護者の期待が大きい。特に障害が重度の児童・生徒に対する ICT 機器活用の工夫が今後も求められる。今年度は指導部特別支援教育指導課研究推進事業3種、指導企画課研究推進事業1種を活用し全教職員のスキルアップにつなげる。

項目		今年度の取組目標、方策 等	対象、期間	主たる責任者
学習指導	1	人権を尊重した適切な指導の徹底、児童・生徒へ適切な言語環境を提供する指導の徹底	全教職員 通年	管理職 教務主任、 各学部主任 管轄
	2	重点目標：外部専門員や教育庁事業を活用した ICT 活用教育推進と全教職員の ICT 活用能力向上 教育庁指導部指導企画課事業：情報教育推進研究事業 教育庁指導部特支課事業：デジタル教科書活用指導の充実 他校との共同遠隔指導の充実 大学連携デジタルアートの充実	全教員、通年	教務主任、 研究部主任、 情報主任、 各学部主任 管轄

2 児童・生徒一人一人のニーズに応じたキャリア教育の充実

- (1) 全体計画に基づき小・中・高の系統性のあるキャリア教育を推進する。
- (2) 保護者及び関係機関と学校の連携を強化・充実し、児童・生徒の進路指導を充実させる。

3年度評価：キャリア教育について情報発信への満足度が令和2年度74%から82%と改善された。「キャリア教育の手引き」が作成されたことをふまえ、今年度は活用の工夫を行い小学部から一貫したキャリア教育の展開が行われるよう継続して指導を行う。保護者行事においても TEAMS、ZOOM の活用等遠隔での相談支援体制の充実を図り実施する。

項目		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間	主たる責任者
キャリア教育	1	キャリア教育の手引きを活用した教員、保護者指導の充実	2学期中	進路指導主任 各学部主任
	2	卒業生、卒業生保護者、区行政等と連携した進路説明会や進路懇談会の実施	2学期中	進路指導主任 高進路専任 各学部主任

3 健康・安全な教育活動の推進

- (1) 教育活動全般を通じた防災教育や地震災害に備えた実践的な危機回避教育を推進する。
- (2) 教員や学校介護職員と医師、看護師等が連携し、健康観察、医療的ケアを安全に実施する。

3年度評価：感染症予防対応のため登校を控える児童・生徒も一定数存在するものの校内での集団発症等は生じることなく安定した学校運営ができた。本校での感染症対策については学校HP等を活用し、保護者及び第三者にもわかりやすく提示を行う。防災については地震、風水害等頻繁に生じ得ることから停電等をふまえた対応訓練、保護者との連絡訓練の充実とともに近隣消防署、市区町村防災課と連携を密に取り実効的な目標及び方策を立案する。

		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間等	主たる責任者
安全指導	1	防災教育推進委員会、区防災課や地域と連携した停電時等対応及び保護者連絡等実効的避難訓練の充実、安全指導の実施	通年、肯定的評価80%	生活指導部主任
	2	ヒヤリハットの迅速な報告、分析による事故再発防止の徹底	年間随時 昨年比半減	生活指導部主任 各学部主任
健康指導	1	都ガイドラインに基づく感染症対策の徹底	学校クラスターゼロ	全教職員
	2	医療的ケア実施指針及び各種ガイドラインに基づく医療的ケア各事業の安全で適切な実施	通年、肯定的評価80%	所掌主幹教諭 各学部主任
特別活動	1	児童・生徒の実態に応じ教科横断的な目標を活かした各種行事の安全な実施	実施後評価による確実な改善	教務主任 各学部主任
	2	各種展示会コンテスト等への出展機会の増数	年間10件以上	教務主任 各学部主任

4 専門性のある人材を活用した特色ある教育の充実

- (1) 外部専門員の活用による自立活動等の充実を図る。
- (2) オリンピックパラリンピック教育の成果として学校レガシーを活かした指導の充実を図る。

3年度評価：外部専門員の活用は個別の指導のあらゆる場面に関わる。専門員増員及び増回数による業務の効率化は大きな課題である。全校児童・生徒にもれなく必要な指導が行き届き教員間で情報共有が図られるよう改善する。本校はオリンピックパラリンピック教育アワード校としての成果を發揮し、学校レガシーアワード校が決定した。今後も学校レガシーとしてアスリートによる競技等体験の機会を維持し全校児童・生徒のスポーツ志向を高めていく。

項目		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間等	主たる責任者
特色ある教育活動	1	外部専門員等による個別の指導自立活動の円滑な調整と情報共有の工夫	通年	所掌主幹教諭 各学部主任
	2	オリンピック・パラリンピック学校レガシー:アスリート等の招聘ほか日本の伝統文化やアートプロジェクト、総合文化祭、文化庁事業等 芸術に関する教育の推進	年1回以上 招聘	教務主任 各学部主任

5 特別支援教育のセンター的機能の充実と地域と連携・協働した取組の推進

- (1) 地域の教育委員会、地域の小・中学校や高等学校と連携し、教育相談や交流活動を実施し共生社会の実現をめざす。
- (2) 学校ホームページを活用し、学校教育活動を適時・迅速に発信する。

3年度評価：放課後等デイサービス各事業所については感染症情報等の共有を含め今後も連携強化が必要である。災害発生時の速やかな連携をはじめ日常的に連絡手段確認等が必要不可欠であり整備する。近隣学校との連携については感染症流行下であることをふまえ、指導部特支課事業を活用し感染症対応を徹底し状況によってはオンラインを活かした遠隔での交流も視野に入れながら、地域交流による特別支援教育推進を実施する。

項目		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間等	主たる責任者
地域交流等	1	地域交流校との展示会や出前授業の推進 指導部特支課事業：障害者スポーツを活用した地域交流の推進	出前授業、 地域交流 1回以上	所掌主幹教諭 各学部主任 コーディネーター
	2	放課後等デイサービスとの確実な情報共有	まちcomiメール設定 連絡会年間 2回	所掌主幹教諭 各学部主任 コーディネーター

6 学校経営と組織体制の強化

- (1) 法令等規則を遵守し、個人情報等の適正で組織的な管理を徹底する。
- (2) 組織として業務の効率化を図るとともに、安全で健康的な働きやすい職場環境を整備する。

3年度評価：主幹教諭の機能を高めることにより学部、分掌等組織力が高まりサービス事故ゼロ、重大な児童・生徒の傷病事故ゼロ継続となっている。各職層における組織目標と職層経験年数に応じたOJT推進を行うとともに各職域における積極的な業務削減に取り組む。短縮授業日の活用による作業効率改善については一定の評価を得た。今後も継続して効率化と年休取得推進による教職員の負担軽減を図る。働き方の多様化が進み、休憩時間も一律ではない。各自が互いの働き方に理解を示し確実に休憩を取得し健康回復に努めるよう管理職等は一層働きかけを強化する。

項目		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間等	主たる責任者
学校運営・組織体制	1	児童・生徒重大事故ゼロ、個人情報紛失事故ゼロ、 サービス事故ゼロ	事故防止研修年間5回	教育管理職
	2	職層及び教職経験年数等をふまえた確実なOJTの推進	通年	教育管理職
	3	分掌及び学部内業務マニュアルの整備・精選	2学期学校 評価で検討 3学期完成	教育管理職 経営企画室長 主幹教諭管轄
	4	休憩時間取得の徹底 年休15日取得の推進	行政系含め 常勤教職員 80%以上	教育管理職 主幹教諭管轄